

共通的な基盤技術に関する研究開発ワーキンググループについて（案）

1. ワーキンググループのスコープについて

地理空間情報の利活用に関連する研究開発について、産学官の間で情報の交換、共有を進め、議論などを通じて理解を深めることで、研究開発のより効果的な推進に貢献する。

当面は、分野を限らず、いままではGIS・衛星測位関連として扱われてこなかった研究開発も含め、幅広く、地理空間情報の利活用に資する基盤技術として産学官の研究開発全般の動向を把握する。

2. 当面の活動（今年度）について

- (1) 産学官で行われている研究開発に関する紹介
- (2) 国際的な開発動向、関連した政策動向の紹介
- (3) 各分野での研究開発の状況及びそれらの総合的な関連を示した「研究開発マップ」の作成
- (4) 今後の研究開発の方向に関する意見交換

2. ワーキンググループの構成員

ワーキンググループは、（参考）の構成員（案）のとおり、次に掲げる者により構成するものとする。

産・・・協議会に参加する団体・機関、もしくは当該団体から推薦があった団体・機関

学・・・地理空間情報の活用推進について総括的に発言頂ける学識経験者

官・・・関係各府省の各部局等

4. ワーキンググループの運営について

(1) 幹事

産・・・木村弘 （財）衛星測位利用推進センター専務理事
学・・・柴崎亮介 東京大学空間情報科学研究センター教授（センター長）
官・・・内閣府政策統括官（科学技術政策・イノベーション担当）付参事官
国土交通省国土計画局参事官（官側の主務）
国土交通省国土地理院企画部長

(2) 出席謝金、交通費等

民間団体（社団法人、財団法人、NPO法人、任意団体等）、学界からの参加者に対して、国から出席謝金、旅費等の支給はしないものとする。

(3) 会議資料等の扱いについて

ワーキンググループの配付資料及び議事概要については、全体会議に準じるものとし、速やかに公開するものとする。ただし、特段の理由があるときは、非公開とすることができる。

(参考)

共通的な基盤技術に関する研究開発ワーキンググループ 構成員（案）

産業界

衛星測位システム協議会

- （財）衛星測位利用推進センター（SPAC）
- （特）国土空間データ基盤推進協議会（NSDIPA）
- g コンテンツ流通推進協議会
- スペーシャリストの会
- （社）全国測量設計業協会連合会
- （財）日本情報処理開発協会
- （社）日本測量協会
- （財）日本測量調査技術協会
- （社）日本地図調製業協会
- （社）北海道総合研究調査会（HIT）

学界

東京大学 空間情報科学研究センター 副センター長・教授 浅見 泰司

東京大学 空間情報科学研究センター 准教授 有川 正俊

東京大学 大学院情報学環学際情報学府 教授 池内 克史

九州大学大学院 工学研究院 教授 江崎 哲郎

東京海洋大学 客員准教授 海老沼 拓史

- 東京大学 空間情報科学研究センター センター長・教授 柴崎 亮介

東京大学 空間情報科学研究センター 准教授 瀬崎 薫

高崎経済大学 地域政策学部 教授 寺前 秀一

北海道大学大学院 文学研究科 准教授 橋本 雄一

東京大学 先端科学技術研究センター 教授 森川 博之

東京海洋大学大学院 特任教授 安田 明生

東京大学 空間情報科学研究センター 特任教授 山田 晴利

大阪工業大学 教授 吉川 眞

官（国）

- 内閣府 政策統括官（科学技術政策・イノベーション担当）付
- 国土交通省 国土計画局
- 国土交通省 国土地理院
- 内閣府 政策統括官（防災担当）付
- 警察庁 科学警察研究所 犯罪行動科学部
- 総務省 自治行政局
- 総務省 情報通信国際戦略局
- 文部科学省 研究開発局
- 農林水産省 農林水産技術会議事務局
- 経済産業省 商務情報政策局
- 国土交通省 大臣官房
- 国土交通省 総合政策局
- 国土交通省 海上保安庁 海洋情報部
- 環境省 総合環境政策局

○は幹事